

旭川歯科医師会便り

Vol.82



事務局／旭川市金星町1丁目1-52
☎(0166)22-2361

<http://www.kyoku-shi.com>

旭川医大歯科口腔外科の治療ボランティアについて

旭川医科大学歯科口腔外科学講座 助教 吉田将亜・教授 松田光悦

旭川医科大学では、「口唇口蓋裂」の治療ボランティアとして、大学病院の歯科口腔外科医師、麻酔科医師、看護師で医療チームを結成し、ベトナムで医療援助活動を行っています。今回はその概要について報告します。

2009年12月18日ベトナムに向け出発し10日間の日程で、貧困などで十分な医療行為を受けられない地域の人々の治療を行いました。これは1992年から始まったNGO「日本口唇口蓋裂協会」(名古屋市)の活動の一環で、今回は全国の大学病院、医療機関などから本大学のチームを含め39人の医療スタッフが参加しました。

ベトナム社会主義共和国は、東アジア・東南アジアのインドシナ半島東岸に位置する社会主義共和制国家です。医療援助活動は、ベトナム最大の商業都市ホーチミン市から南に約100km、メコン川のデルタ地帯に位置するバンチェ省と呼ばれる地域を対象としています。同省は1965年から約10年間に渡って続いたベトナム戦争で枯葉剤の被害を受けた地域の一つであり、口唇口蓋裂をはじめとした先天異常児の発現が多い地域でもあります。この省内の中心部、約400床を有するグエンディンチュー病院で、52例の口唇口蓋裂手術を行いました。

現地の医療制度は、日本のように保険制度や医療支援制度が整備されていないため、口唇口蓋裂治療を受けられる子供は、一部の裕福層であり、貧しい家庭や医療過疎地域の子供たちは、適切な時期に適切な治療が受けられません。この様な理由からバンチェ省では日本からの医療支援が行われています。活動の実際は、大学病院から持参した手術器具等を準備し、連日早朝5時半起床、7時から手術をはじめて、手術終了後の深夜に回診を行うといったスケジュールです。肉体的にはかなりハードで、滞在中はつらく感じることもありますが、治療後の患者さんの笑顔を見るとやりがいを感じます。治療を受けた患者さんや家族そして、同省の人民委員会の方々からは感謝の言葉をいただきました。

今回で、旭川医大歯科口腔外科からの参加は3年連続となりましたが、この活動を通じて世界各地に十分な医療を受けられない人々が、いまだ大勢存在することを認識させられます。同時に、これら患者さんが元気になって障害や差別のない人生を送れるよう歯科医師として手助けできれば、と考えています。

このような活動は、職場をはじめ周囲の理解と協力がなければ出来ないことです。機会を与えてくださいました旭川医科大学病院関係者の皆様に深謝致します。

